

[シリーズエディター仁田義雄・村木新次郎]

もはや、日本語研究は、“いわゆる国語学者”だけの専有領域ではなくなってきている。言語学や各個別言語を専門とする者の中にも、日本語の研究を行ったり、日本語との対照研究を行ったりする者が増えてきている。さらに言えば、言語研究プロパーでない（たとえば、言語情報処理等）人達からの言語に対する発言・研究も増えつつある。したがって、日本語についての研究と云えども、伝統的な国語学の成果を踏まえながらも、もはや、それら諸領域での研究成果を無視するわけにはいかないものになってきている。

こういう時期に、比較的若手を中心として、日本語を核としたさほど大部ではないモノグラムの研究叢書を編むことにしたのは、理論に傾いた研究と実証に重きを置く研究に梯子を掛け、日本語を中心として研究を進めている研究者と、何らかの点で日本語にも関心を持つ研究者との間に橋を渡すことのできる少しでも新しい研究成果・研究方法を呈示できればとの思いからである。

この叢書が、日本語研究、広くは言語研究に、ささやかながらも一石を投ずることができれば、編者ならびに執筆者にとってこれに過ぎたる喜びはない。

【日本語研究叢書の発刊にあたって】

近年、日本語研究は、新しい展開を示しています。これまでの国語学の研究の範囲を超え、海外の言語研究の流れから相互的に影響を受け、また、日本語情報処理、認知言語学などの影響、また、日本語教育などからの様々な要請などにより、特に現代語の研究の場で、活発に議論が巻き起こり、相互に影響を与え、大きな成果があがりつつあります。もちろん、従来の国語学の蓄積を軽んずるものではなく、明治期に国語学と博言学（言語学）にわかれた日本語の研究がここに来て、新たな統合の時期を迎えているということが言えるのではないのでしょうか。さらに、英語、フランス語、中国語などの外国語との対照研究も広く行われつつあり、日本語を色々なレベルで客観的に研究する土壌が育ってきている状況にあることと思われます。日本語も新たな時期に達したのだと思います。小社では、そうした新しい局面を重視し、これからの日本語研究のために『日本語研究叢書』と題して、刊行して行くことにいたしました。まず、第1期を刊行し、続けて第2期、第3期と刊行して行きたいと存じます。

現在、日本語研究の世界で、優れた業績を上げ、また上げつつある中堅・若手の鋭い研究者によって執筆される本叢書が日本語研究のいっそうの発展に寄与することを信じ、また、祈っております。ぜひとも皆様がたのご支援とご鞭撻をお願い申し上げます。

1 1 **日本語動詞の諸相 (5刷)**

村木新次郎著 A5判 348ページ 本体4000円(税込4200円) ISBN01-3

「動詞の形態論」、「動詞の統語的特徴」、「形式動詞とその周辺」の三部構成による現代日本語の動詞の分析。動詞の精密な研究として、エポックをなしており、今後の研究においては当然踏まえらるべきものである。活用の詳細な研究は、日本語を教える人々にも読んでもらいたい。

1 2 **古代日本語動詞のテンス・アスペクト**
源氏物語の分析 (2刷)



鈴木泰著 A5判 358ページ 本体4100円(税込4305円) ISBN08-0

古代語の動詞の研究は検証されない「通説」であったことを批判しつつ、実証的な論証から古代語の動詞の仕組みにせまる。源氏物語を題材にした分析は、同時に物語のテキストの性質にもせまる。文学研究者にも必読の書として評価の高い書。

1 3 **現代日本語の語構成論的研究 (2刷)**
語における形と意味

斎藤倫明著 A5判 346ページ 本体4700円(税込4935円) ISBN06-4

現代語を語構成の立場から、事実を丁寧に追いながらそして理論的に分析。「言語単位をめぐって」「形容詞語幹をめぐって」「複合動詞をめぐって」「語構成と意味」の4部からなる。<2刷にて索引を増補>

1 4 **日本語のモダリティと人称 (6刷)**

仁田義雄著 A5判 280ページ 本体3200円(税込3360円) ISBN02-1

文の成り立ち、文とはなにかというものを考えるときに必須であるモダリティ論の基礎的文献であり、必読の重要な書。文というものに興味を持つ言語研究者以外の人々にもすすめたい。

1 5 **視点と主観性** (3刷) 市河賞受賞!

日英語助動詞の分析

澤田治美著 A5判 338ページ 本体4400円(税込4620円) ISBN17-X

テキストの分析に重要な「視点と主観性」といった観点からの日英語助動詞の比較研究である。この観点は、言語の実際面の考察に必要であり、微妙な言語現象への考察は、言語研究のみならず文学研究にも有益である。



1 6 **日英語の否定** 加藤泰彦著 1993年2月刊行!



1 7 **したいこととすべきこと** 工藤浩著 1993年2月刊行!

第2期

2 1 **認知文法論** (3刷)

山梨正明著 A5判 320ページ 本体4200円(税込4410円) ISBN42-0

待望久しい認知言語学の第一人者による文法論。カテゴリー化のプロセス、イメージスキーマとメンタルモデル、転義と文法化のプロセス、メタファーとメトニミー、視点とプロトタイプ、意味の慣用化とブリーチング等の問題を実証的に考察しながら、言葉とこころのメカニズムにかかわる言語研究の新しい方向を探究。認知科学の観点から、言葉と人間の認識のメカニズムの解明を目指す本格的な研究書。

2 4 **文法と語形成** (2刷) 金田一京助記念賞受賞!

影山太郎著 A5判 395ページ 本体4854円(税込5097円) ISBN19-6

日本語における語形成と統語論・意味論が関わり合う種々の現象を観察し、そこから、生成文法における形態論の在り方を理論的に考察する。とりわけ、語彙的な語形成と統語的な語形成を包括するモジュール理論を提唱する。

2 7 **アスペクト・テンス体系とテキスト**

工藤真由美著 A5判 317ページ 本体4200円(税込4410円) ISBN59-5
日本語のアスペクト・テンス体系はどうなっているか。この分野における最近の充実した成果。時間の問題はテキストの問題でもあり、語りの問題でもあることから、言語研究者ばかりでなく、原理的にテキストを研究する際にも有益。



2 2 **日本語の引用** 鎌田修著



2 3 **日本語の存在表現の歴史** 金水敏著



2 5 **言語運用と言語事実** アンドレイ・ベケシュ著



2 6 **日本語における談話の管理について** 田窪行則著



2 8 **日本語形態論**(「語の活用と文の活用」より書名変更) 城田俊著 10月刊行

第3期執筆者・概要案内

野村眞木夫 上越教育大学助教授

(略歴)1950年東京都に生まれる。1983年北海道大学大学院博士課程退学。弘前学院大学助教授を経て現職。

(主要論文、研究書)『ケーススタディ日本語の文章・談話』(おうふう、1990、共著)「説明の機能 説明の表現の文脈効果」『表現研究』58(1993)「描出」『国語研究』10(1996)

日本語のテキスト 機能・関係・様相・効果・選択 約250ページ

現代日本語のテキストの組織化を研究対象として、コミュニケーションに即した、動態的な考察を試みる。まず、テキストの展開において、諸要素がどのように機能して関係性をはりめぐらしているのか、その様相を探る。さらに、そういった関係性が認知されるとき、テキストがどのような文脈的・文体的な効果を発揮するのか、総称表現や描出表現など具体的な表現類型と意味の選択をとりあげながら分析する。

藤田保幸 滋賀大学教育学部助教授

(略歴)1958年大阪府に生まれる。1986年大阪大学博士課程中退。愛知教育大学助教授を経て現職。

(主要論文、研究書)「文中引用句『～ト』による『引用』を整理する」『論集日本語研究(一)現代編』(明治書院、1986)「引用されたコトバの記号論的位置づけと文法的性格」『詞林16』(1994)「引用論における『話し手投写』の概念」『宮地裕・敦子先生の古稀記念論集日本語の研究』(明治書院、1995)

タイトル:未定(「引用」に関するもの)

本書は、日本語の引用表現・話法について、意味・統語・表現論的に考究しようとするものである。第一部では、日本語の引用表現・話法に関する研究史を概観し、諸家の所説の達成と問題点を検討しつつ、それらと対峙させる形で、筆者自身の所論を示す。第二部では、引用研究の新たな展開の可能性を探って、いくつかの個別的な問題についてケーススタディを行う。

杉戸清樹 国立国語研究所言語行動研究部第一研究室室長

(略歴)1949年愛知県に生まれる。1975年名古屋大学大学院修士課程修了。国立国語研究所研究員を経て現職。

(主要論文、研究書)『企業の中の敬語』(国立国語研究所報告、1982、共著)『言語行動における日独比較』(同1984、共著)『談話行動の諸相』(同1987、共著)『社会言語学』(おうふう、1992、共著)『デイリーコンサイス漢字辞典』(三省堂、1995、共編)「言語行動としての待遇表現」『日本語学』2-7(1983)「言語行動についてのきまりことば」『日本語学』8-2(1987)「言語行動における省略」『日本語学』12-10(1993)「お礼に何を申しましょう」『日本語学』13-7(1994)言語行動という視点(仮題) 約250ページ

言語行動という視点の広がり可能性を議論する。この際、先行の言語行動論的な研究を踏まえつつ、日本語の社会言語学的調査研究の分野での言語行動研究を具体的に再吟味しながら、主として、対人的な配慮が言語行動の諸側面にほどこされるメカニズムに焦点を置いて考察する。

西山佑司 慶應義塾大学言語文化研究所教授

(略歴)1943年東京都に生まれる。1974年M.I.T.大学院博士課程修了(Ph.D.)。慶應義塾大学言語文化研究所助教授を経て現職。

(主要論文、研究書)「『象は鼻が長い』構文について」『慶應義塾大学言語文化研究所紀要21』(1989)「『カキ料理は広島が本場だ』構文について」『慶應義塾大学言語文化研究所紀要22』(1990)「コピュラ文における名詞句の解釈をめぐる」『文法と意味の間:国広哲弥教授還暦退官記念論文集』(くろしお出版、1990)「日本語の意味と思考 コピュラ文の意味と構造を手がかりに」『日本語論2』(山本書房、1994)

日本語名詞句の意味論と語用論 約250ページ

文中に登場する名詞句の意味解釈の問題を、とくに指示性・非指示性という観点から考察する。まず、先行研究の問題点を指摘した上で、「変項名詞句」という概念の導入が必要であることを論じる。この概念を用いて、「は」と「が」の区別に関する重要な側面を指摘する。そして、日本語のコピュラ文にたいする意味解釈、「変わる」「分かる」「知る」「ある」「いる」などを含む文にたいする意味分析を行い、名詞句と疑問文構造とのあいだの意味論的・語用論的関わりを論じる。

石崎公曹（略歴）奄美大島龍郷町瀬留出身。台北帝大予科・七高から同志社大卒業。高校・中学・養護学校教諭を経て、現在郷土研究家、奄美郷土研究会会員。1928年生まれ。

松本泰丈（略歴）埼玉県秩父出身。東京大学大学院修士課程修了。山梨大学教授、奄美郷土研究会会員。1941年生まれ。

奄美大島（北部）方言の文法（共著）

地元の方言研究者と本土研究者の共同作業によって、奄美大島（北部）方言の文法を、形態論を中心として体系的に記述する。北部方言に属する龍郷町瀬留集落のことばを、動詞・名詞・形容詞と品詞ごとに考察をくわえる。そのさい、文法的な面と語彙的な面のかかわりあいにつれながら、文法的なかたちのもつ意味＝内容面をほりさげていくようにした。

日比谷潤子 慶應義塾大学国際センター助教授

（略歴）1957年東京都に生まれる。1982年上智大学大学院外国語学研究科博士前期課程修了。1988年ペンシルヴェニア大学大学院博士課程修了（言語学、Ph.D取得）。

（主要論文、研究書）『ヴァンクーヴァーの日系人の言語変容』『アメリカの日系人 都市・社会・生活』（同文館出版、1994）“The velar nasal in Tokyo Japanese: A case of diffusion from above” *Language Variation and Change* 7 (1995) “Denasalization of the velar nasal in Tokyo Japanese: Observations in real time” *Towards a Social Science of Language* (John Benjamins 1996)

言語接触と言語変容 日系二世カナダ人の日英語における変異（仮題）

二つ以上の異なった言語体系が個人或いは集団の中で接触することを、言語接触という。言語接触の具体例は、歴史的にも共時的にも少なくない。本書では、カナダのヴァンクーヴァーとトロントで日系1、2、3、4世カナダ人から収集した自然談話録音資料を対象に、日本語・英語の言語接触を取り上げ、この二つの言語が接触した結果、音声・音韻・形態・統語・意味の各レベルでおこった言語変容の諸相を解明していく。

[シリーズエディター加藤泰彦・工藤浩・鈴木泰・仁田義雄・村木新次郎]

テーマごとに現代日本語の研究の様々な成果を集める日本語研究資料集シリーズ。各巻の編者による書き下ろしを 解説編 として新たに加え、文献一覧と著者名一覧を付し、検索の便をはかった。

第7巻 指示詞

金水敏・田窪行則編 A5判 210ページ 本体2500円(税込2625円)

ISBN09-9

[収録論文] 古田東朔・佐久間鼎・三上章・高橋太郎・服部四郎・阪田雪子・久野暉・堀口和吉・黒田成幸・吉本啓・金水敏・田窪行則

第8巻 動詞の自他

須賀一好・早津恵美子編 A5判 250ページ 本体2500円(税込2625円)

ISBN53-6

[収録論文] 本居春庭・松下大三郎・西尾寅弥・奥津敬一郎・井上和子・青木伶子・須賀一好・野村剛史・天野みどり・ヤコブセン・早津恵美子・野田尚史

第13巻 語構成

斎藤倫明・石井正彦編 A5判 354ページ 本体3100円(税込3255円)

ISBN78-1

[収録論文] 奥津敬一郎・影山太郎・斎賀秀夫・阪倉篤義・玉村文郎・長嶋善郎・西尾寅弥・野村雅昭・林四郎・姫野昌子・宮地裕・宮島達夫・森岡健二・湯本昭南・ワカバヤシマサオ

日本語研究資料集第1期

-
-  第1巻 **モダリティ** 仁田義雄・益岡隆志編
-
-  第2・3巻 **テンス・アスペクト** 鈴木泰・澤田治美・工藤真由美・森山卓郎編
-
-  第4巻 **ヴォイス** 村木新次郎・外池滋生編
-
-  第5巻 **否定** 加藤泰彦・井上優編
-
-  第6巻 **活用** 村木新次郎・屋名池誠編
-
-  第9巻 **はとが** 上林洋二・丹羽哲也編
-
-  第10巻 **格** 仁田義雄・小矢野哲夫編
-
-  第11巻 **とりたて** 野田尚史・沼田善子編
-
-  第12巻 **副詞** 工藤浩・矢澤真人編
-
-  第14巻 **語の意味** 山田進・相澤正夫編
-

第1巻 **言語普遍性と言語類型論** (2刷)

統語論と形態論

バナード・コムリー著 松本克己・山本秀樹訳

A5判 320ページ 本体3200円(税込3360円) ISBN07-2

様々な言語から言語の普遍性と類型論を追究した名著の翻訳。色々なタイプの言語を考察していくことから深められた考察は、日本語を考える際にも有益である。

第2巻 **ことばは世界とどうかかわるか**

語用論入門

ヤコブ・L・メイ著 澤田治美・高司正夫訳 A5判 380ページ

本体3880円(税込4074円) ISBN75-7

Journal of Pragmaticsの雑誌の編集長でもあり、多くのシリーズエディターをつとめている著者の語用論の決定版。ユーモアと含蓄に富んだ記述は、話芸ともいえよう。満を持しての刊行。本書は、ブラックウェル社に先がけて、ひつじ書房が契約した書籍である。言語研究のみならず、人文科学全般に有益。翻訳時、著者に確認の上、原著のミスを多数訂正している。

第3巻 **ひとは発話をどう理解するか** (2刷)

関連性理論入門

ダイアン・ブレイクモア著 武内道子・山 英一訳

A5判 310ページ 本体3009円(税込3159円) ISBN23-4

文化人類学者スペルベルと言語学者ウィルソンによる、人間の認知上の一般原則に基づく伝達理論としての関連性理論の入門書。なぜ人間はわずかな情報だけで発話を理解でき、時に理解に失敗するのか。また、日常の会話とアイロニーやメタファーなども統一的に考察できる新しい理論でもあり、文学研究にも有益である。

第4巻 **構造的統語論原理**

ルシアン・テニエル著 小泉保ほか訳





第5巻 意味と発話行為

ダニエル・ヴァンダイヴェーケン著 久保進ほか訳 A5判 本体4400円
(税込4620円) ISBN85-4

言語哲学者サールとも共同研究を行っているヴァンダイヴェーケンによる発話行為理論の決定版。今回の訳者とも共同の研究を行っており、翻訳に成果が生かされている。



第6巻 アスペクト論集1

マスロフほか著 菅野裕臣編訳



第7巻 否定の博物誌

ローレンス・L・ホーン著 河上誓作・濱本秀樹・吉村あき子訳



第8巻 ことばはどのようにつながるか? (仮題)

英語の結束性

ハリディ著 安藤貞雄ほか訳 A5判

ことばは、次々とつながっていくことで文章や談話になっていく。文の研究から文章の研究へむかいつつある今後の言語研究にとって必須な結束性 (cohesion) の基本的文献。

叢書以外の言語学の翻訳書

日本語の複文構造

カトリーヌ・ガルニエ著 細川英雄・小出美河子訳
A5判 205ページ 本体4854円(税込5097円) ISBN30-7

フランスの著名な日本語学者である著者の日本語の複文の研究。今後、研究の発展が求められている分野の大いなる前進。日本人でさえ、研究成果の少ない分野で、実に優れた業績を上げているといえよう。

第1巻 方言地理学の展開

徳川宗賢著 A5判上製 650ページ 本体15000円(税込15750円) ISBN10-2
『日本言語地図』の調査・作成、『日本方言大辞典』の編集など、方言研究・方言地理学に精力をそそいできた著者のはじめての論文集。現在の方言研究・社会言語学の指針となる書。それぞれの論文を補訂する補記を巻末に付す。



第2巻 中古中世の言葉遣いの研究

森野宗明著 予15000円



第3巻 日本語の音 音声学と音韻論

城田俊著 A5判上製 280ページ 品切れ(並製版が入手できます。34ページ参照) ISBN11-0

本書は日本語共通語の音声を全ての水準において記述することを試みたものである。これまでの日本語の音韻論は結果として妥当なものであっても、結論が必ずしも道筋を明確にして、緻密に論証されていたとはいえなかった。その欠けていた音韻論の論証を一步一步飛躍なく精密に記述したはじめてのものである。

第4巻 古代日本語母音論

上代特殊仮名遣の再解釈

松本克己著 A5判上製 204ページ 本体9000円(税込9450円) ISBN31-5
上代語は八母音だったのか、従来の定説に大きな衝撃を投げかけた論の決定版を含む著者の初めての著書。言語学者ばかりでなく、上代文学に関心を持つ人々の必読書。詳細な語彙索引を付す。

第5巻 バントゥ諸語動詞アクセントの研究

湯川恭敏著 A5判上製 690ページ 本体19000円(税込19950円) ISBN38-2
「多くのバントゥ系言語を調査していくうちに、それらのアクセントの面白さに魅かれるようになった。...動詞アクセントの場合、基本的にはすべての活用形が分からなければそれを調査・分析したことはならない」著者のアフリカ語研究の決定版。

第6巻 **Studies in English and Japanese Auxiliaries:
A Multi-stratal Approach** 文部省助成刊行物

澤田治美著 A5判上製 424ページ 本体12000円(税込12600円) ISBN39-0
学位論文の公刊。日英の助動詞の研究では定評のある(市河賞受賞)著者による語用論的分析。日本の読者に読みやすいように例文はローマ字表記の他に日本語を付す。(英語)。

第7巻 **言語の時間表現** 文部省助成刊行物

金子亨著 A5判 515ページ ISBN87-0

人類の言語に、普遍的な時間概念があるのかというという徹底した問題意識のもとに従来のテンス・アスペクトを、全く新しく越えようとする書き下ろしの研究書。

第8巻 **拾遺 日本文法論**

奥津敬一郎著 A5判上製 458ページ 本体5825円(税込6116円) ISBN63-3
著者の広い関心の中から今まで一緒に纏められていなかった数量詞移動、複合名詞、不定詞、引用、夕型文、移動変化動詞、「はい」と「いいえ」、受身文、授受動詞構文などに関する重要な論文を集めて刊行。いわば、アルバムに未収録のシングルヒット集である!

第9巻 **日本語条件表現史の研究** 文部省助成刊行物

小林賢次著 A5判上製 436ページ 本体12000円(税込12600円) ISBN64-1
著者が研究の出発から継続して取り組んできた条件表現史の集大成。日本語史の研究者はもちろん、現代語の研究者にも有益。

第10巻 **束縛関係** 文部省助成刊行物

代用表現と移動

中村捷著 A5判上製 331ページ 本体6019円(税込6320円) ISBN65-X
生成文法の研究でしられる著者の最新の研究を一書に纏めたもの。第1章 束縛理論、第2章 代名詞、第3章 束縛代名詞、第4章 日本語の再帰代名詞、第5章 日本語の空代名詞、第6章 英語の遊離数量詞、第7章 優位条件と多重疑問文、第8章 空演算子構文、第9章 機能範疇と移動規則

第11巻 **意味分析の方法** 理論と実践

森田良行著 A5判上製 374ページ 本体4272円(税込4486円) ISBN66-8
『基礎日本語辞典』(角川書店)など、日本語の精密な分析で知られる著者のいままでの語の意味の実践的な分析の裏付けとなる方法を、ひとつひとつ丁寧に解きあかす。本書は『基礎日本語辞典』の記述を補いあうものである。

第12巻 **上代語の構文と表記**

佐佐木隆著 A5判上製 472ページ 本体14000円(税込14700円) ISBN77-3
著者がここ十年ほどのあいだに執筆した上代語の構文や表記にかかわる論考をまとめたもの。本書は、上代語の構文の特徴や実相を確認し、それにそったかたちで『古事記』や『日本書紀』の歌謡の文脈を解釈、『萬葉集』の歌句を構文面から検討、上代語に特有の表記の背景を考察している。

第13巻 **日本語文法の諸問題**

高橋太郎先生古希記念論文集

鈴木泰・角田太作編 A5判上製 248ページ 本体4200円(税込4410円)
ISBN76-5

執筆者 高橋太郎・宮島達夫・かねこひさかず・まつもとひろたけ・鈴木泰・角田太作・工藤浩・金田章宏・澤田和浩。



第14巻

日本語文法(仮題)

体系と方法

10月刊行予定

川端善明・仁田義雄編 予560ページ 予10000円(税込10500円)

執筆者 仁田義雄・石神照雄・川端善明・田上稔・小野正弘・加藤久雄・菊地康人・森井紳・内田賢徳・安部清哉・蜂矢真郷・鈴木泰・野村剛史・山口堯二・浅見徹・金水敏・柴谷方良・澤田治美・高橋太郎・工藤浩・小矢野哲夫・丹羽哲也・前田富祺・宮島達夫・森山卓郎ほか

現在、日本語の文法研究の最前線の研究者を集める。渡辺実氏の古希を記念して企画された。



第15巻

日本語方言一型アクセントの研究

文部省助成刊行物

山口幸洋著 予520ページ 本体19000円(税込19950円)

アクセント研究で名高い著者の研究の決定版。一型アクセントは「アクセントが無い」のではない。「読み上げ式」が主であった従来の方言の研究方法に対する批判とともに、日本語のアクセントを根底から研究する。

98年2月刊行

HOLDS (Hituzi Outstanding Linguistics Dissertation Series)

[シリーズエディター 中島平三]

NO.1 **Japanese Syntactic Structures and their Constructional Meanings**

久保美織著 254ページ

A 5 判上製 本体12000円 (税込12600円) ISBN36-6

並製 本体4000円 (税込4200円) ISBN35-8

MITで取得した学位論文にわずかに誤植を訂正した公刊。日本語の基本句構造を考える上で必読の研究書。「は」と「が」、状態・動作動詞の構造的相違とそれに伴う格の表出、使役構文、そして従属節、名詞句の構造に至るまで、多彩な分析が展開されている。生成文法の観点から意味と構造の関係に取り込んだ力作。(英語)

NO.2 **Syntax and Semantics of *wh*-quantifier Interactions**

吉田恵以子著 194ページ

A 5 判上製 本体12000円 (税込12600円) ISBN49-8

並製 本体3884円 (税込4078円) ISBN48-X

コーネル大学で取得した学位論文の大幅な改訂版。公開は小社より独占発行。(英語)

NO.3 **Syntactic Projections of the Semantics of Aspect**

ウィリアム・マックルーラー著

A 5 判 373ページ 本体4000円 (税込4200円) ISBN60-9

コーネル大学へ提出された学位論文の公刊。(英語)

NO.1 Current Topics in Japanese and English

中村捷編 A5判 369ページ 本体4000円(税込4200円) ISBN34-X

東北大学で、94年夏に開かれたセミナーの内容をまとめた論集。英語学の中堅層から、当時、MITで学位論文の執筆中の執筆者をも含む、最新の研究成果(英語)。Nobuko Hasegawa, Yoshiaki Kaneko, Fusa Katada, Akira Kikuchi, Masatoshi Koizumi, Kenichi Mihara, Masaru Nakamura, Hiromu Sakai, Tatsuya Suzuki, Yuji Takano, Koichi Takezawa, Naoto Tomisawa, Hiroyuki Uta, Akira Watanabe

NO.2 日英語の右方移動構文 その構造と機能

高見健一編 A5判 225ページ 本体4100円(税込4305円)

ISBN56-0

中島平三、田子内健介、鈴木右文、平田一郎、桑原和生、奥野忠徳、高見健一、藤野洋子、Seiji Niato

NO.3 「も」の言語学

つくば言語文化フォーラム編 A5判 319ページ 本体4200円(税込4410円)

ISBN57-9

沼田善子(現代日本語)、森野崇(古代日本語)、レー・バン・クー(ベトナム語)、フランス・ドルヌ(フランス語)、ダニエラ・カルヤヌ(ルーマニア語)、アンドレイ・ベケシュ(スロヴェニア語)

NO.4 Minimalism and Linguistic Theory

原口庄輔・船城道雄編 A5判 135ページ 本体3204円(税込3364円)

ISBN58-7

Howard LASNIK, JUN ABE, Yoshio ENDO, Robyne TIEDEMAN, Shigeo TONOIKE(英語)



NO.5 「た」の言語学 つくば言語文化フォーラム編

日本近代語研究 2

近代語研究会編 A5判上製 360ページ 本体15000円(税込15750円)
ISBN54-4

執筆者 出雲朝子 / 金沢裕之 / 金子弘 / 佐藤貴裕 / 清水登 / 鈴木博 / 田中章夫 / 陳力衛 / 永田高志 / 蜂谷清人 / 飛田良文 / 宮田和子 / 村田菜穂子

(お詫び・佐藤先生の図版の部分に間違いがありました。訂正の図版を用意していますのでご請求下さい。)



日本近代語研究 1

近代語研究会編 本体20000円(税込21000円) 品切れ ISBN05-6

都竹通年雄著作集 第1巻 音韻・方言研究篇

都竹通年雄著 平山輝男序 山口幸洋解説

A5判上製 187ページ 本体4800円(税込5040円) ISBN29-3

驚異的な精力で研究に打ち込み、博学な知識と純粋な研究心によって知られていた都竹通年雄の研究を刊行する。

都竹通年雄著作集 第2巻 文法研究篇

都竹通年雄著 松本泰丈編・解説 A5判上製 329ページ 本体4800円
(税込5040円) ISBN72-2

都竹の中心的なテーマであった(方言)文法の研究を集めて刊行した。

日本語の文法の研究(3刷)

佐治圭三著 A5判 312ページ 本体4800円(税込5040円) ISBN03-X

長年、日本語教育・文法研究に携わってきた著者の初めての著書。日本語を教える人、学ぶ人にとっての、必読の書。「はとが」、「はとも」、「のだ文」など肝要な事項を研究解説した本。

外国人が間違えやすい日本語の表現の研究 (3刷)

佐治圭三著 A5判 328ページ 本体3500円(税込3675円) ISBN13-7
中国での日本語教育の長年の指導の経験に基づき、日本語を学ぶ際に重要なことを分かりやすく述べる。これから日本語を教える人には、どのような質問が寄せられ、どういった答えを返したらよいかの想定問答集ともなる書。

「～は～」のはなし

堀口和吉著 A5判 212ページ 本体3500円(税込3675円) ISBN41-2
今の国文法教育の大きな欠陥の一つは、文の構成を主語・述語・修飾語から成るとし、それにとどまることである。本書は、その誤りを指摘し、主語述語主義の呪縛から解放を願うものである。

要約文の表現類型 日本語教育と国語教育のために

佐久間まゆみ編 A5判 348ページ 3500円(税込3675円) ISBN28-5
日本語理解のテストのため、また、テキスト研究にとって重要な要約文の研究。第1部「文章理解と要約文の研究概要」、第2部「韓国人日本語学習者の要約文の分析」より構成。



ことばと時間

長野泰彦編 予500ページ 予8800円

Alfred Gell・安富歩・宮田登・古橋信孝・見田宗介・立川武蔵・Peter Austin・James A. Matisoff・崎山理・Marianne Mithun・Wallace Chafe・川田順造

民博で行われたシンポジウムをまとめたもの。哲学者・言語学者・文化人類学者など学問の境界を超え、ことばと時間について追求する。

The Dative and Related Phenomena

松村一登・林徹編 A5判 310ページ

本体5000円(税込5250円) ISBN82-X

“The Dative and Related Phenomena” is a collection of papers dealing with syntactic phenomena in various languages which in one way or other are associated with the DATIVE. The linguistic forms and constructions under discussion are the “applicative” in Tembo (Bantu) and Australian Aboriginal languages, the “genitive” in Turkish, the “adessive” in Estonian, the “dative” in Telugu and German, and the “indirect object” in French. The collection also includes two papers (B. Comrie, T. Ooe) which are not directly related to the general topic.

Contributors: Peter Austin (Australian Aboriginal languages), Bernard Comrie (Siberian languages), Tooru Hayasi (Turkish), Sigeki Kaji (Tembo), Nozomi Kodama (Telugu), Kazuto Matsumura (Estonian), Takao Ooe (Korean), Akio Ogawa (German), Sigeru Sakahara (French)
(英語)

A Parametric Approach to Case Alternation

Phenomena in Japanese

森川正博著 A5判 253ページ 本体5825円(税込6116円) ISBN21-8

GB理論に基づき、日本語の格の問題を取り扱った研究。新しい知見にとむ、ワシントン大学の学位論文の大幅な改訂版(英語)。

Semantics and Pragmatics of Hedge in English and Japanese

井谷玲子著 A5判 257ページ 本体3689円(税込3873円) ISBN70-6

ロンドン大学のウィンルソンのもとに提出されたレリバンス理論の学位論文(英語)。

第1巻 **フィクションの機構**

中村三春著 四六判上製 430ページ 本体3107円 (税込3262円) ISBN27-7

哲学的文芸学の誕生 (野家啓一東北大学教授 推薦)

横光利一・太宰治などをテキストとして今までにない虚構理論を展開する。分析哲学や様々な虚構理論を踏まえつつ、それらの超越をめざす。最もラディカルな局面から小説・詩などの局面を捉え直す。根元的虚構理論の書。(書評掲載 山形新聞ほか)

第2巻 **身体の構築学** 社会的学習過程としての身体技法

福島真人編 四六判上製 546ページ 本体4078円 (税込4282円) ISBN46-3

近代の問題、認知の問題のいきつくところは身体である。身体が「芸能」というからだの活動をどう修得していくかということを手がかりに、この問題にせまる。人文科学・社会科学における卓越した成果。ブルデューを超えたか? (書評掲載 毎日新聞ほか)

第3巻 **伝承と言語**

佐佐木隆著 四六判上製 320ページ 本体4200円 (税込4410円) ISBN47-1

古代語の音韻研究で定評ある著者によるはじめての著書。古代説話の構造主義分析と言語が逆に説話を生み出し、説話を育てていく現象の分析。言語学者、上代文学研究者、そして説話研究者にすすめたい。(書評掲載 産経新聞)

第4巻 **読むということ**

和田敦彦著 予310ページ 予3600円

近代の文学はどのような「読まれ方」によって成立してきたのか、読者論、社会史を踏まえながら、新しい局面へと誘いかける。気鋭の新著。

第5巻 **祭りの社会史を越えて** 小林康正

第6巻 **大和魂の行方** 鈴木淳

第7巻 **様式とメタファー** (仮題) 中村三春

第1巻 **東京弁は生きていた**

秋永一枝著 四六判 238ページ 本体2330円(税込2446円) ISBN44-7

下町育ちの国語学者である著者が、生粋の江戸っ子たちと話をして、東京弁を集め、分析したもの。今はもう失われてしまった愛すべき言葉たちへのレクイエム。(毎日新聞で書評掲載・杉浦日向子さん)

第2巻 **江戸長崎紅毛遊学**

杉本つとむ著 四六判 333ページ 本体2330円(税込2446円) ISBN79-X

江戸時代の知識人にとって長崎留学は夢であった。世界に開いた窓である長崎。そこからオランダ文化は吸収されていくのであった。蘭学・洋学の第一人者である著者によるエッセイ。

ひつじ研究叢書（文学編）第1巻

江戸和学論考 文部省助成刊行物

鈴木淳著 A5判上製 754ページ 本体15000円（税込15750円） ISBN80-3

江戸期の和学研究で定評のある著者による現時点での集大成。日本の近代の学問自体の母胎の一つである和学の研究は、広く、他分野の研究者にも必読の書と言えよう。巻頭に美しい図版を付す。

ひつじ研究叢書（芸能編）第1巻

王の舞の民俗学的研究 文部省助成刊行物

橋本裕之著 A5判上製 544ページ 本体9223円（税込9684円） ISBN81-1

若狭地方に残る王の舞は中世の田楽を受け継ぐ数少ない芸能の一つである。本書は、若狭地方という民俗社会になぜ王の舞が残っていたのか、芸能史と民俗学を基盤として、文化人類学的な新しい知見とともに、その本質にせまるものである。また、民俗芸能という身体技法の謎にもせまる。

その他

テキスト・語り・プロット 木村彰一賞受賞！

チェーホフの短編小説の詩学

清水道子著 A5判上製 575ページ 本体8000円（税込8400円） ISBN33-1

川端香男里東京大学名誉教授推薦

チェーホフの短編小説「犬を連れた奥さん」の全文分析や、他の短編の分析を行っている。テキスト主義的な分析としてここまで徹底して追求されたものとしては、はじめてのものである。ロシア文学以外の分野の文学研究者にも必読の書。

課題としての民俗芸能研究

民俗芸能研究会 / 第一民俗芸能学会編

A5判上製 600ページ 本体9223円(税込9684円) ISBN20-X

文学研究から演劇学・文化人類学にいたる主に若手研究者による「民俗芸能」を根底から考察し直す論文集。

英文鑑

資料と研究

杉本つとむ編著 A5判上製 698ページ 本体12000円(税込12600円)
ISBN16-1

本書は、天保年間に、渋川六蔵・藤井三郎補訂にオランダ語訳本より作られた日本英語学史上の初の英文法書である。もとのものは失われたが、大月如電が昭和3年(1928)油印本で限定100部復刻したものの貴重な複製。研究を付す。

平家琵琶

語りと音楽

文部省助成刊行物

平家琵琶研究会 上参郷祐康編

A5判上製 384ページ 本体12000円(税込12600円) ISBN15-3

日本文学・日本語学をはじめとして、日本音楽・比較文学・民俗学などの研究者の既存の分野を越えた研究会である平家琵琶研究会によっておこなわれてきた平家琵琶をめぐる学際的で新しい研究成果を公刊する研究論文集である。

ネチケツト

ネットワークのエチケツト

バージニア・シャー著 松本功訳 菊池敦子協力

A5判 本体1500円(税込1575円) ISBN67-6

インターネット、パソコン通信、コンピュータによる通信が常識化した時代の必読書。本書を読んでいると、通信の世界で非難を浴びせられなくて済むはず。ネットワーク社会が、住み良い楽しいものになる。

マッキントッシュでできる外国語シリーズ

マックで中国語

内田慶市・野原康宏著 A5判 本体2330円(税込2446円) ISBN71-4

マッキントッシュで中国語を入力・処理・出力するための本。アップル社が出した中国語キットを組み込むことで容易に日本語や英語などと混ぜて入出力ができるのだが、中国語キットには日本語のマニュアルがついていない。実際に中国語を使うときに必要なノウハウを満載。



マックでハンゲル

岡本昌己著 予2400円

ハンゲルと日本語を文章の中で一緒に書き表すということを可能にし、相互の文章のやりとりを実現するKorean Language Kitとマルチリンガルのノウハウのガイドブック。日韓の相互交流、対照研究、また、ビジネスにも必須の本。



マックでロシア語

小原信利著 予2400円

ロシア語を日本語とまぜて文書を作成するためのガイドブック。



動かない、どうにかしてくれ！

オンラインサポートの技法

ラルフ・ウィルソン著 A5判 小原信利訳 本体2800円(税込2940円)
ISBN83-8

オンラインサポートの実際を解きあかした本。電話をかける方、電話を受けて問題の解決に当たる方、サポート者を支えるべき社内のシステム側、高度な技術社会で避けて通ることのできないコミュニケーションについての本。

デジタルリテラシー叢書



デジタルテキストの技法(仮題)

家辺勝文著

テキストを電子的にやり取りするということはどういうことなのか。そのために考えておく必要のあることは、どういうことか。電子リテラシーの基礎を考えていく現在の必須の本。すべての文字を書く人にすすめたい。



デジタルレイアウトの技法(仮題)

山本英司著

文書をパソコンで書くというのは、すでにわれわれの日常である。本書は、今の時代に適したより効果的なフォントの使い方、レイアウトの仕方を解説する。



ルネッサンスパブリッシャー

まつもといさお著

(学術)出版は、減んでしまうか？ 電子出版によって生き返るか？ 本来黒子であるべき編集者であるにもかかわらず、学術情報の公開・出版とはどうあるべきなのか、身を省みず提案する恥かき本。



続刊 マルチメディアレポートの技法 山中速人ほか著 98年刊行予定

ここからはじまる日本語学

伊坂淳一著 A5判 182ページ 本体1600円(税込1680円) ISBN73-0

現代人が間違え易い、あるいは移り変わりつつある現在の生きた言葉づかいを出発点に、日本語を考えるとはどういうことなのかということと日本語の仕組みを考えていく。教養として学ぶことができるように十二分に配慮して執筆された新しいテキスト。半期制に対応。<小社ホームページにサンプルあり。>

日本語要説

A5判 337ページ 本体1900円(税込1995円) ISBN18-8

仁田義雄(現代語の文法・文法論)、鈴木泰(古代語の文法・文法史)、村木新次郎(現代語の語彙・語彙論)、小林賢次(古代語の語彙・語彙史)、土岐哲(現代語の音声・音韻論)、林史典(古代語の音韻・音韻史/文字・表記)、真田信治(社会言語学・方言学)、畠弘巳(文章・談話)、山梨正明(認知言語学)、田中穂積(言語情報処理)、工藤浩(日本語学史)

テキスト版 日本語の音 音声学と音韻論

城田俊著 A5判 280ページ 本体2136円(税込2243円) ISBN45-5

本書は日本語共通語の音声全てを全ての水準において記述することを試みたものである。これまでの日本語の音韻論は結果として妥当なものであっても、結論が必ずしも道筋を明確にして、緻密に論証されていたとはいえなかった。その欠けていた音韻論の論証を一步一步飛躍なく精密に記述したはじめてのものである。

方言要説

篠崎晃一・小林隆編

方言の様々な局面、文法・音韻・アクセントなどの最先端の知識を集め、概説したテキスト。<OPENTeXtbook> 本書は、あらかじめご相談をいただければ、一部の章を採用することも可能。



Hituzi's Linguistics Textbook Series

NO.1 **Meaning and the English Verb**

Geoffrey N. Leech著 澤田治美 日本語解説付

A 5判 253ページ 本体2330円(税込2446円) ISBN26-9

理論研究者にも記述的な言語研究者にも定評あるLeechのテキストのひつじ版。英語のあるいはことばについて考えるということが面白いことであるということを教えてくれる本でもある。

NO.2 **Linguistics**

Jean Aitchison著 安藤貞雄注

A 5判 250ページ 本体2330円(税込2446円) ISBN37-4

定評あるJean Aitchisonの著書のひつじ版リプリント。的確で目配りの聞いた、そして過不足のない本書は言語学・英語学のテキストとして優れたものである。

外国語入門シリーズ

朝鮮語入門

油谷幸利著 B 5判 135ページ 本体1300円(税込1365円) ISBN62-5

定評ある著者による入門書。本書のCD-ROM版も、この冬発売する。

CD-ROM版のサンプルはNiftyserve F Lのデータライブラリの6番の105あるいはひつじ書房のホームページからダウンロードできる。

朝鮮語中級

油谷幸利著 B 5判 予1300円

入門編の続編。

ベトナム語中級など企画中。



ファンダメンタルシリーズ

ファンダメンタル英語学

中島平三著 A5判 146ページ 本体1200円(税込1260円) ISBN55-2

簡潔にして要を得た英語学のテキストの決定版。本書は、英語学研究の基盤となる基礎知識や、思考法、研究方法など英語学研究のエッセンスを、なるべく時流に流されない形でしかもコンパクトに提供しようとするもの。英語学の中核をなす統語論、形態論、音韻論、意味論の基礎を日本語で平明、簡潔かつ丁寧に提示する。

ファンダメンタル英語史

児馬修著 A5判 140ページ 本体1500円(税込1575円) ISBN74-9

「現代英語をより深く理解するため」という観点から書かれた英語史の入門書。この1500年の間の英語の文法の仕組みが、どのように(How)なぜ(Why)変化したかという問題をも取り扱い、言語変化のメカニズムに関する様々な言語学的アプローチを試みる。

ファンダメンタル英文法

瀬田幸人著 A5判 180ページ 本体1600円(税込1680円) ISBN86-2

本書は、この例文はこういう意味だ、というような形で実例を網羅的に収集することを意図したものではなく、様々な実例の背後にあると思われる規則性について考えてもらうことを意図したものである。覚える英文法ではなくて、考える英文法を目指した文法書といってよい。

ひつじアンソロジーシリーズ

第1巻 **ひつじアンソロジー小説編 1**

中村三春編 四六判 372ページ 本体2330円(税込2446円) ISBN43-9

一般の文学史に出てこないフィクションの名作を選びすぎり、10作家15作品を収録。作家ごとの解説付き。真にフィクションの魅惑に酔うことを望むすべての人々に。

[収録作品] 泉鏡花(朱日記) 大泉黒石(犬儒哲学者/不死身) 江戸川乱歩(火星の運河/白昼夢/踊る一寸法師) 牧野信一(西瓜食う人) 岡本かの子(花は勁し) 坂口安吾(紫大納言) 立原道造(鮎の歌) 太宰治(懶惰の歌留多) 椿 実(月光と耳の話
レデゴダの幻想) 天沢退二郎(赤い凧/小さな魔女/秋祭り)

[解説執筆者] 赤間亜生/大沢正善/和田茂俊/伊狩弘/押野武志/中村三春/佐野正人/九里順子/跡上史朗/宮川健郎

第2巻 **ひつじアンソロジー詩編**

中村三春編 四六判 262ページ 本体2000円(税込2100円) ISBN69-2

現代に発表された日本の現代詩の中から10詩人を取り上げ、大まかに現代詩の流れをたどる。各作品・詩人ごとの分かりやすい解説を付す。優れた作品を再評価。

[収録詩人] 尾形亀之助/安西冬衛/村野四郎/永瀬清子/伊東静雄/吉岡実/谷川俊太郎/清水哲男/荒川洋治/伊藤比呂美

[解説執筆者] 和田茂俊/中村三春/虫明美喜/野坂昭雄/赤間亜生/宮川健郎



第3巻 **ひつじアンソロジー児童文学編**

正しい民俗芸能研究 0号

頒価800円

橋本裕之氏ら若き民俗芸能研究者たちが、新しい民俗芸能研究の実践を目指して組織した「第一民俗芸能学会」の機関誌準備号として発刊したものの。その会の全容が記されている。

早稲田日本語研究 2

早稲田大学国語学会 本体1500円(税込1575円) ISBN50-1

執筆者 杉本つとむ・今野真二・宋永彬・鄭夏俊・本多久美子・吉田健二

早稲田日本語研究 3

早稲田大学国語学会 本体1500円(税込1575円) ISBN51-X

執筆者 岩淵匡・杉本つとむ・上野和昭・加藤薫・朴海煥

早稲田日本語研究 4

早稲田大学国語学会 本体1500円(税込1575円) ISBN68-4

執筆者 飯間浩明・水野恵子・坂本恵・本多久美子・大島悦子

早稲田日本語研究 5

早稲田大学国語学会 本体1500円(税込1575円) ISBN88-9

執筆者 今野真二・松木正恵・鄭夏俊・朴海煥・宮田公治・松永修一

ひととことば 1993

ひととことば研究会編 本体1262円(税込1325円) ISBN32-3

執筆者 鎌田倫子・大関真理・西谷まり・本多英由美・江原有輝子

ひととことば 1994

ひととことば研究会編 本体1262円(税込1325円) ISBN52-8

執筆者 飯間浩明・早川幸子・鎌田倫子・宮田公治・石黒圭・寺嶋薫・江原有輝子・
西谷まり・河内千春・江中美知子・細川英雄

ひととことば 1995・96

ひととことば研究会編 本体1262円(税込1325円) ISBN84-6

執筆者 江原有輝子・西谷まり・河内千春・能波由佳・高橋淑郎・石黒圭・横田和
子・牲川波都季・村松千恵・細川英雄
